



2024年8月9日

各 位

会 社 名 フジコピアン株式会社  
 本社所在地 大阪市西淀川区御幣島五丁目4番14号  
 代 表 者 名 代表取締役社長 光本 明  
 (コード 7957 東証スタンダード)  
 問 合 せ 先 専務取締役 上田 正隆  
 電 話 番 号 06-6471-7071

## 2024年12月期 第2四半期(中間期)連結業績予想数値と実績の差異に関するお知らせ

2024年2月14日に公表いたしました2024年12月期第2四半期(中間期)(2024年1月1日～2024年6月30日)の連結業績予想と、本日公表の実績に差異が生じたので下記のとおりお知らせいたします。

## 記

## 1 第2四半期(中間期)連結業績予想と実績の差異

## (1) 2024年12月期 第2四半期(中間期)連結業績予想と実績の差異(2024年1月1日～2024年6月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 中間純利益	1株当たり 中間純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前 回 発 表 予 想 (A)	4,350	△ 190	△ 160	△ 180	△ 117.59
実 績 値 (B)	4,106	△ 307	△ 202	△ 214	△ 140.27
増 減 額 (B-A)	△ 244	△ 117	△ 42	△ 34	
増 減 率 (%)	△ 5.6	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (2023年12月期第2四半期)	4,111	△ 261	△ 166	△ 242	△ 158.13

## (2) 第2四半期(中間期)連結業績予想と実績の差異の理由

当第2四半期(中間期)連結累計期間の業績については、特に2024年4月～6月の3ヶ月間において、国内の需要回復にまだ遅れは見られるものの、海外では主力のサーマルトランスファーメディアおよびテープ類における需要が顕著に回復いたしました。そのため売上高は、第1四半期(2024年1月～3月)に対し増加いたしました(後掲の表をご参照)。一方、利益面におきましては、グループを挙げた生産の効率化や販売費・一般管理費などコスト削減に取り組みましたが、ウクライナ・中東情勢の長期化や世界的なインフレと金融引き締めが継続するとともに円安進行もあいまって、エネルギーコストの高止まりに加え、原材料価格が上昇基調にあり、厳しい状況が続いております。また、上記のとおり、海外向け売上高が顕著に回復してきたなか、海外の販売子会社(連結対象子会社)と決算月が異なることに起因する想定以上の未実現利益の消去が発生したことにより、各利益につきまして、前回発表予想を下回りました。

通期の業績予想につきましては、変動費等業績に与える影響が大きい為替や原燃料価格の動向を含めて現在精査中であり、前回発表(2024年2月14日)から変更しておりません。業績予想の修正が必要と判断した場合には速やかに公表いたします。

〔品別売上高〕

(単位:百万円)

	2024年		
	1～3月	4～6月	累計
売 上 高	1,897	2,208	4,106
サーマルトランスファーメディア	1,121	1,307	2,429
インパクトリボン	189	190	379
テープ類	341	447	789
機能性フィルム	78	83	161
その他	61	83	145
プラスチック成形関連	105	95	200

(注) 上記の予想は、発表日現在において入手可能な情報にもとづき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

以 上